

## 平成23年度 第2回英語学教育FD/ICT活用研究委員会 議事概要

- I. 日時 : 平成23年8月24日(土) 午後2時から午後4時まで  
II. 場所 : 私立大学情報教育協会 事務局 会議室  
III. 出席者 : 山本委員長、田中副委員長、五十嵐委員、西納春雄委員、山本委員、  
小林委員 原田委員  
(事務局) 井端事務局長、森下主幹、松本職員

### IV. 検討事項

#### 1. 報告書のまとめ方について

事務局から、報告書では、当委員会のページ数は3ページ程度であるので、簡潔にまとめ、できるだけ、全体に拘わることを重複させて記述しない方針が示された。また、授業シナリオは、簡潔な流れを記述して一見してそれが分かるようにすべきであるとの見解が示された。

その上で、「学士力を実現するための教育改善モデル中間まとめ(案)の修正についての検討を行った。

#### 2. 教育改善モデル中間まとめ案1の検討

前回の検討を踏まえて、委員が作成した修正(案)をもとに検討を行った。

##### (1) 到達度として学生が身に付ける能力

作成済みの学士力の到達度に合わせ、補足する項目を能力の詳細として記入することに修正。

##### (2) e-Learning の誤解を解く

アンケート回答の中で、e-Learning のイメージを個人学習、ドリル型のイメージで捉えられている意見があるが、この提案では学習管理システムによる多面的な教育で教員の指導を想定しており、現状通りとする。このため、修正案は反映させないが、最終報告書ではe-Learning のイメージについての補足説明を入れることにした。

##### (3) 英語でできるだけ授業をする

「英語によるコミュニケーション力を高め、現実的な英語使用の場を増やすために、授業はできるだけ英語で行うことが必要である。」を授業計画に追加し、修正した。

##### (4) 授業を画像に残し編集する

授業を録画し、振り返りに活用することが重要であることから、2.5ICT を用いた学習方法④を「ポートフォリオや「授業録画などを利用」して学習した成果を振り返らせる。」に修正した。

##### (5) グループワークの誤解を解く

個人学習では、学習意欲の継続が難しい点をグループ学習で補う意味で、2.3 ICT を用いた授業シナリオの①を「到達していない場合には、学習管理システムのサイトにおいてグループ単位で教員及びファシリテータを介して、学生の能力に応じたeラーニングを行う。」に修正した。

##### (6) 到達度評価について

学生が他の学生の学習結果を正しく評価できるように訓練されるべきであるという意見や、評価の基準が決められて明示されていないなければならない、との意見があり、相互評価を通じて、他を評価する中で自らも学ぶ視点を取り入れ、2.3 ③ 「他のグループの成果と相互に評価・論評し、それらの成果や評価・論評を学習管理システム上などで参考にしながら学習成果を改良する」に修正した。

##### (7) その他の変更、修正事項

- ① 改定案2.4 ④データの検索、調査は反映しない。  
② 改定案2.5 ②英文資料、データの収集・蓄積は反映しない。  
③ 改定案2.6 ②リアルタイムオンラインはオンライン・オフラインに変更し修正する。  
④ 改定案2.6 ③外部の意見をネット上や対面で受けるに修正する。

- ⑤ 改定案 2.6 ①を、グローバルな情報に積極的に接することができ、多様な英語情報を理解・分析して学びに活用することができるに修正した。
- ⑥ 改定案 2.7 ①プラットフォームということばが曖昧で分かりにくいため、SNS などのプラットフォーム、と具体的に示した。
- ⑦ 改定案 2. ③情報倫理についてガイドラインを提供する必要が指摘され、修正した。
- ⑧ 改定案 3 ②上級学年生や大学院生によるファシリテータ、に修正した。
- ⑨ 改定案 3 ③実際の活動場面、あるいは録画や成果物を学生同士で相互評価させるとともに外部評価を加えるべきであるとの見解が示され、外部評価を追加修正した。
- ⑩ 改定案 3 ④学習成果の到達度評価について、大学間あるいは教員間で基準を申し合わせる必要があることが指摘され、大学・教員間の基準を追加、修正した。

## 2. 学士力を実現するための教育改善モデル中間まとめ案 2 の修正について

### (1) 授業のねらい

これまでの英語教育で目指されていた技能向上から実用を目指すことに焦点を移し修正した。「対策のための学び」を「対策や技能向上だけを目指す学び」に修正した。

### (2) 授業計画

専門教員と英語教員が連携して指導を行うプラットフォームの構築と、両者が対等の立場で協働教育を展開することが提案され、「連携して指導を行うプラットフォームを構築し、専門知識は専門教員が、英語は英語教員が対等な関係を保ちながら協働教育を展開する」に表現を修正した。

### (3) 授業シナリオ

2.3 ⑤ 専門知識と英語表現のチェックの部分を削除した。

### (4) 学習方法・内容

2.4 ③ ティーム・ティーチングの表現を削除し、専門分野の教員と英語教員が、「オンライン・オフライン」での指導に修正した。

2.4 ④ 授業ごとに発展課題を課してと表現を修正。2.4 ⑤表現のみ修正した。

### (5) 期待させる効果

2.5 ③ 自立的に学びを展開し深める、に内容修正した。

### (6) 学習環境

2.6 ③ は学習環境ではなく、授業運営上の問題及び課題に移すことにした。

### (7) 授業運営上の問題及び課題

① 「教員同士による授業協力のシステム」の表現を、組織的な取り組みを図るため、「教員同士による授業連携の仕組み」に変更修正した。

④ 国際社会に情報を公開し、意見をもとめる際の注意事項として、人種・宗教・文化などの適切な表現についてガイドラインが必要となる。学習環境から移動し修正した。

## 3. 今後の検討内容について

今後は、授業評価の方法、教育改善に向けて教員がどのような力を持たなければいけないのか、ICT 活用能力も含めて、教員の教育力について検討することになった。

## 4. 今後の日程

10月開催を目途にメーリングリストで日程調整する。